

土木学会鋼構造委員会 小委員会活動報告

小委員会名	アルミニウム構造小委員会	委員長	倉西茂	連絡幹事	穴見健吾
活動予定期間	2009 年 3 月 ～ 平成 2012 年 2 月 (3 年間)				
活動の目的	<p>アルミニウム合金はこれまで橋の高欄や道路のガードレールなど付属品的な用途以外に社会基盤構造物の主要部材として用いられることはほとんどなかった。しかし初期コストだけでなく、耐用年数を考慮に入れたライフサイクルコストを重視する近年の傾向から、維持管理コストが少なくすむアルミニウム合金を社会基盤構造物に積極的に活かそうという動きが出てきた。これにともなって、最近では、アルミニウム歩道橋や歩道用アルミニウム床版が建設されるようになってきた。また、研究面では、道路橋用アルミニウム床版やアルミニウム合金製制震ダンパーの実用化に関する研究が活発に行なわれている。このような状況下で、本小委員会では、これまでに得られたアルミニウム構造に関する研究成果を広く土木界に普及することを目的としている。</p>				
前回鋼構造委員会報告後の活動状況	<p>シンポジウムのテキスト作成 原稿の締切：2011 年 12 月末 テキストの完成：2012 年 1 月末</p>				
今後の活動計画	<p>『アルミニウム合金材の土木構造物への活用に関するシンポジウム』の開催 日時：2012 年 5 月 15 日 (火) 13:00～17:00 場所：土木学会講堂 共催：日本アルミニウム協会，アルミニウム橋研究会</p>				
目標成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演会、講習会、シンポジウムなどの開催 2. アルミニウム構造に関する刊行物の企画と編集 				
PRポイント	<p>1991 年、英国の溶接研究所で発明された摩擦攪拌接合はアルミニウム合金構造物の製作に技術革新をもたらしている。摩擦攪拌接合技術を土木構造物に適用することに関して我国は世界をリードしている。我国の進んだ技術を世界に向けて発信する。</p>				
その他					